## 2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015年1月5日作成)

小委員会名   環境まちづくり小委員会   主 査 名:川崎興太 就任年月:2013 年 4 月   委員長名: 有賀隆				(2013 平 1 月 3 口15成)
(所属運営委員会) 都市計画委員会 2013 年 4 月 ~ 2015 年 3 月 都市計画にかかわる環境政策・制度の整理・分析を行うとともに、土地利用政策、交通政策、エネルギー政策などを含めた総合的な観点から、環境モデル都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地における環境まちづくりの実態と課題を把握し、環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについての探求・提言を行うことを目的とする。 【2013 年度】 ・環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地についての探求・提言を行うことを目的とする。 【2013 年度】 ・環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行う。 ・学会全国大会に際しては、オーガナイズドセッションを実施する。 ・環境まちづくりに取り組む自治体を対象として、現地調査・ヒアリング調査を実施し、環境まちづくりの実態や課題について具体的に把握する。 【2014 年度】 ・環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについて具体的に把握する。 【2014 年度】 ・環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについて具体的に控制する。・学会全国大会に際しては、研究懇談会を実施し、東日本大震災および福島原発事故の被災地での環境まちづくりの実態と課題などについて議論する。また、オーガナイズドセッションを実施し、東日本大震災および福島原発事故の被災地での環境まちづくりにかかわる最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるとまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるとまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるとまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかるとまざまな最新の動向について報告・計論する。委員公募の有無:有主査:川崎興太(福島大学)幹事:大和田清隆(オリエンタルコンサルタンツ)、斎藤伊久太郎(千葉大学)、斎藤充弘(福島大学)、池田孝之(沖縄美ら島財団)、郭東潤(千葉大学)、斎藤充弘(福島大学)、藤本典嗣(福島大学)、並ホールペーミ公門の有無・有	小委員会名	環境まちづくり小委員会	•	
都市計画にかかわる環境政策・制度の整理・分析を行うとともに、土地利用政策、交通政策、エネルギー政策などを含めた総合的な観点から、環境モデル都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地における環境まちづくりの実態と課題を把握し、環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについての探求・提言を行うことを目的とする。 [2013 年度] ・環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行う。 ・学会全国大会に際しては、オーガナイズドセッションを実施する。・環境まちづくりに取り組む自治体を対象として、現地調査・ヒアリング調査を実施し、環境まちづくりの実態や課題について具体的に把握する。 [2014 年度] ・環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについて具体的に検討する。・学会全国大会に際しては、研究懇談会を実施し、東日本大震災および福島原発事故後における環境まちづくりの実態と課題などについて議論する。また、オーガナイズドセッションを実施し、東日本大震災および福島原発事故の被災地での環境まちづくりにかかわる最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかるさまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかるさまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向について報告・討論する。 委員公募の有無:有主査:川崎興太(福島大学) 対路の表示を行うとといまの表示を行うと思想を表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといましまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまを表示を行うといまの表示を行うまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといましまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を行うといまりまの表示を行うといまりまりますを表示を行うといまの表示を行うといまりまりまといまの表示を行うといまの表示を行うといまりまの表示を行うといまの表示を行うといまの表示を表示を行うといまの表示を行うといまりまりまの表示を表示を行うといまりまりまりまりまりまりますを表示を表示を行うといまりまりまりまりまりまりを表示を行うといまりを表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を		都市計画委員会		委員長名:有賀隆
策、交通政策、エネルギー政策などを含めた総合的な観点から、環境モデル都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地における環境まちづくりの実態と課題を把握し、環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについての探求・提言を行うことを目的とする。 【2013 年度】 ・環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行う。 ・学会全国大会に際しては、オーガナイズドセッションを実施する。・環境まちづくりに取り組む自治体を対象として、現地調査・ヒアリング調査を実施し、環境まちづくりの実態や課題について具体的に把握する。【2014 年度】 ・環境未来都市や環境共生型都市計画のあり方などについて具体的に検討する。・学会全国大会に際しては、研究懇談会を実施し、東日本大震災および福島原発事故後における環境まちづくりの実態と課題などについて議論する。また、オーガナイズドセッションを実施する。・公開シンポジウムを実施し、東日本大震災および福島原発事故の被災地での環境まちづくりにかかわるきまざまな最新の動向について報告・討論する。 委員公募の有無:有主査:川崎興太(福島大学)幹事:大和田清隆(オリエンタルコンサルタンツ)、亦蘇伊久太郎(千葉大学)、加藤宏承(オリエンタルコンサルタンツ)、斎藤伊久太郎(千葉大学)、流藤赤弘(福島工業高等専門学校)、田中宏実(藤女子大学)、辻本乃理子(大阪健康福祉短期大学)、藤本典嗣(福島大学)	設置期間	2013年4月 ~	~ 2015年3月	
主査:川崎興太(福島大学)  幸員構成 (委員名(所属))  (委員名(所属))  幸貴: 大和田清隆(オリエンタルコンサルタンツ)、小野尋子(琉球大学)  委員: 安藤尚一(政策研究大学院大学)、池田孝之(沖縄美ら島財団)、郭東潤(千葉大学)、加藤宏承(オリエンタルコンサルタンツ)、斎藤伊久太郎(千葉大学)、斎藤充弘(福島工業高等専門学校)、田中宏実(藤女子大学)、辻本乃理子(大阪健康福祉短期大学)、藤本典嗣(福島大学)  設置 WG (WG 名:目的)	各年度活動計画	策、では、 、では、 、のとないに 、のとないに 、のとないに 、のとないに 、のとないに 、のとないに 、のとないに 、のとない 、のと、	一政策を含めた総合に 一政策を含めたを含めたを含めたを含めたを含めたを含めたを含めた。 一政策県の境をを地来的と、ではないである。 にはないではないではないである。 にはないでないでないでないでないでないでないでないでないでないでないでないでないでな	的な観点から、環境モデル都市、 こめ、全国各地における環境まと 現典生型都市計画のあり方など の基地跡地をはじめ、全国各地 実態と問題点に関する情報の交 で、現地調査・ヒアリング調査を で、現地調査をでして具体的に検討する。 で、東日本地域と放射能汚染地域と がて議論する。また、オーガナイ で、なで、でではいて環境まちづくの環 全国各地の環境まちづくのにない。 では、ではいてのではいていてにない。 では、ないではいてにない。 では、ないではいていてにない。 では、ないではいていてはいいではいていてはいていてはいいではいいではいいではいいではいい
(WG 名:目的) ホームページ公開の有無・有	(委員名 (所属))	主査:川崎興太(福島大 幹事:大和田清隆(オリ 委員:安藤尚一(政策研究 葉大学)、加藤宏 大学)、斎藤充弘	エンタルコンサルタンで 究大学院大学)、池田孝之 承(オリエンタルコンサ (福島工業高等専門学校	2 (沖縄美ら島財団)、郭東潤 (千 ルタンツ)、斎藤伊久太郎 (千葉 i)、田中宏実 (藤女子大学)、辻
0010 ケウス 第				
2013 年度予算   200,000 円   委員会 HP アドレス:http://blogs. yahoo. co. jp/kankyo_machi	2013 年度予算	200 000 H		ogs.yahoo.co.jp/kankyo_machi

項目	自己評価	
委員会開催数	5回(年度内計画を含む)	
刊行物 (シンポジウム資料 等は除く)		
講習会		

催し物 (シンポジウム・セ ミナー・研究会・見 学会等)	1. 2014 年度公開シンポジウム「環境まちづくり最前線ー現在の到達点と今後の展望ー」 11 月 7 日 参加者数:18 名
大会研究集会	・オーガナイズドセッションの開催 ・ 研究懇談会「環境まちづくり最前線ー東日本大震災および福島原発事故後の 動向を中心に一」開催
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と 得られた成果との関 係)	<ul> <li>【2013 年度の成果】</li> <li>1. 環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行うことができた。</li> <li>2. 学会全国大会においては、オーガナイズドセッションを実施し、除染や再生可能エネルギーなどに関して、議論を深めることができた。</li> <li>3. 千葉県山武市を対象として現地調査・ヒアリング調査を実施し、環境まちづくりの実態や課題について具体的に把握することができた。</li> <li>【2014 年度の成果】</li> <li>4. 環境未来都市、東日本大震災の被災地、沖縄県の基地跡地をはじめ、全国各地の環境まちづくりに関する事例を収集し、その実態と問題点に関する情報の交換・共有化を行うことができた。</li> <li>5. 学会全国大会においては、研究懇談会を実施し、東日本大震災および福島原発事故後における環境まちづくり政策、津波被災地域と放射能汚染地域における環境まちづくりなどについて議論することを通じて、環境まちづくりの実態と課題、今後のあり方に関する知見を深めることができた。</li> <li>6. また、学会全国大会においては、オーガナイズドセッションを実施し、環境教育、除染、再生可能エネルギーなどに関して、議論を深めることができた。</li> <li>7. 公開シンポジウムを実施し、東日本大震災および福島原発事故の被災地での環境まちづくりにかかわる最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向とともに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向とでもに、全国各地の環境まちづくりにかかわるさまざまな最新の動向とできた。</li> <li>以上から、目標を十分に達成することができたと考えられる。</li> </ul>
委員会活動の問題点 ・課題	小委員会として精力的に活動を進めたが、2年間という限られた時間では最終的な活動成果として企画を進めている出版までは辿り着くことが難しかった。今後、さらに研究活動を続け、出版物として成果を出したい。

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。